

ニューヨークとハワイでの掃除を通して

アメリカ ハワイ州
中西 茂秋・裕美子



1998年、ニューヨーク・マンハッタンに私たち念願のレストラン「AKI」をオープンしました。

市の法律では、お店の前を掃除しなくてはなりません。毎日公園のお掃除をしていると、地域や来店のお客様へ感謝の気持ちが芽ばえ始めました。

2004年、代表日野紀子さんが続けていた「ニューヨーク de ボランティア」と、塩貝博さん団長の「日本を美しくする会」のコラボによる、日米合同の第2回「ニューヨーク掃除に学ぶ会」に参加しました。マンハッタンのレクリエーションセンターで、施設スタッフや利用者とシャワールームやトイレを掃除しました。

これがご縁で、愛知県日間賀島の大会や東日本大震災で大被害を受けた雄勝町立浜漁港の掃除やお祭りにも参加しました。

1998年、ニューヨーク・マンハッタンに私たち念願のレストラン「AKI」をオープンしました。

私たちはこれ以外にも、月1回

日系仲間で地元を掃除する「NYお掃除大作戦」を行ってきました。

「ニューヨーク掃除に学ぶ会」は、2012年の10年を区切りにしました。私たちもりタイヤの身となり、掃除をしながら1年間パックパック世界旅行をした後、ハワイホノルルに移り住みました。

2014年、ここで再び塩貝久さんと「ホノルルを美しくする会」を立ち上げました。(写真) 毎年10~20名でビーチなどを清掃していましたが、コロナ禍では日本からの来訪はありません。しかし私たちは、掃除の火を消さないようお寺で活動し、ニューヨークからハワイへと、感謝を込めて「一つ拾えば一つきれいになる」の掃除道を続けています。

掃除に学んだ 日本精神の真髓

東京都 飯塚 克則



ずっと汚れを落としていくと、最後は便器が愛おしく感じるようになります。その感動と清々しさを今でも覚えています。

その後、山崎先生が主催する「東京便教会」に参加するようになりました。そして、2019年、学校異動を機に、1・2年生担任時の教え子や保護者様と一緒に「街頭清掃の会」を立ち上げました。新小岩駅から江戸川区の学校まで掃除をしました。

また、異動先の大田区の学校でも、卒業した5・6年生担任時の教え子と、2021年4月から学校周りの街頭清掃を始めました。どちらの会も、コロナ禍に負けず月1回ペースで続けています。

まるでお宝を見つけたように、

(136 0071 東京都江東区亀戸9-36-5-201)

2016年4月30日、山崎敏哉先生に誘われて、日本を美しくする会の東京都稻城市の小学校でのトイレ掃除に、初めて参加しました。便器を素手で掃除した、あの衝撃は忘れられません。汚いものに正面から向き合って少し

ごみを楽しんで拾う教え子の姿に毎回感動しています。今は街頭清掃だけですが、いずれトイレ掃除をしたいと思っています。

目の前の汚いもの、つまり課題を見て見ぬふりをするのではなく、勇気をもって直視し、向かい合い、地道に改善していく大切さを、掃除から学びました。

掃除は、日本精神、神道のお祓い、武道の修練、修養につながると実感しています。

また、掃除はご縁を引き寄せる力があり、これまで多くの方々との良き出逢いをいたきました。そして、自分磨きにつながる経験ができました。このご縁と学びに感謝し、これからも掃除道に邁進します。

過去は変えられないけど 未来は変えられる

兵庫県　白井謙吾



高校入学2か月後からアルバイトをするようになり、お金の苦心や先輩からどなれたりしましたが、これらすべてが経験となり、僕は少しずつ自分の生き方をするようになりました。

卒業し内装職人でいこうと思つた矢先に、阪神淡路大震災が発生し退職。日雇い土木作業者になりました。毎日が楽しく夢中になり、これで食っていくと決めました。24歳で結婚、娘も授かり、多くの資格を取りました。

僕は1975年大阪生まれ、47歳のサラリーマンです。7歳のときに母が急死し、父は仕事と家事で忙しく、私は学校で落ちこぼれました。寄り添ってくれる先生はおらず、一般高校は失敗し専門学校に行きました。

と考えるようになりました。

40歳で「夜間の高校教師を目指す」と決め、大手建設会社に転職しました。20年の土木の経験と32の資格が役立ちました。決意が固まるごとにかかる困難も通過点でした。しんどいから諦めるという選択肢は一切ありません。

大学の通信教育課程を4年間受け、今年免許取得に挑戦しましたが、失敗でした。順調にいかないのが僕の人生です。

トイレ掃除のたびに、子どものことを想像します。便器にこびりついた尿石は、冷え切った子どもの心ではないかと。温かく時間をかけて取り除くしかない。そんな子どもに温かく寄り添う教師になりたいと思います。

いいことを表に出さない

生き方・陰徳の人生

東京都 鍵山 幸一郎



しいお人柄、生き方をさらに実践して参ります」

私は現在、身体の自由が利かなくなつた父の代わりに、父に届いた郵便物に目を通す役割を担っています。すると、このような内容のお手紙が、何通も寄せられていました。

今まで、目に見えている部分だけで、充分尊敬してきました。ところが、私の知らないところでこれだけ多くの方々を励まし、悔いを残さぬ納得のいく人生に導いていることを知り、その尊敬の念はより深まつた次第です。こうして身内を賞賛するのは多少気がひけますが、日頃から謙虚さを信条としている父らしいなと思ひ紹介いたしました。

「鍵山様と30年前に出逢いまして児島在住のご夫婦より、父宛に手紙が届きました。原文の一部をそのまま紹介します。

「鍵山様と30年前に出逢いまして私たちの人生は変わりました。いい人生だつたと感謝申し上げます。これからも鍵山様のやさ

は謙虚だ」ということを学んだと書かれています。これぞまさに陰徳ではないでしょうか？

頭では陰徳という言葉を知つてはいましたが、ようやく陰徳がどんな人や行動を示す言葉かとうことを理解することができました。陰徳は机に向かつて身に付くものではありません。より多くの掃除を重ねることにより、思いやりの心を深めることができます。そして、私自身も陰徳を身に付けるよう努めていきたいと思います。

最後になりますが、日本を美しくする会の将来に関し、父からの提言があります。『凡事徹底一日一話』(PHP研究所)2月25日分(「広める」)をご参照ください。

また、別の方は「本当に偉い人

やつておいて良かつた
続けてきて良かつた

滋賀県

田中 喜一郎

ことしか覚えていません。掃除後に、爽やかな気分と心地良さを感じて、次の月も参加してみようと思いました。

2011年、彦根掃除に学ぶ



会の代表世話人となり、代表として初の掃除実習は、彦根市立稲枝中学校でした。前週から掃除道具の準備、班割表、時間配分表を何度も確認し、前日の夜はケガや事故の起こらないよう祈り、まったく眠れませんでした。

閉会式で、生徒さんから「掃

トイレ掃除と出会って16年になります。勤めていた会社の友人に誘われて、2006年4月7日草津市立志津小学校のトイレ掃除に参加しました。参加者は大人10人ぐらい、リーダーの言わるまま一所懸命に便器を磨いた

した。活動を続けていくなかで多くの方と出会い、自分の心を磨く機会に恵まれました。鍵山相談役の本をむさぼるように読み、日々の生活や仕事に活かすようにしてきました。

ハガキで四季の挨拶や何気ない日常を書くことは、日々の細やかな楽しみです。トイレ掃除の月例会、西梅田街頭清掃、大阪洗心読書会、人間学塾などで自己研鑽を積んでいます。

介護福祉士として介護施設に勤めていますが、世間様へのお立ちを目指すことで、私の人生が豊かになっていくようです。今つくづく思います。トイレ掃除を「長く続けてきて良かつた」と。

トイレ掃除を始めるまでの私は、ジコチュード打算的な人間で

置かれた場所で花が咲く ～新たな環境で～

愛媛県 越智 誠司



発達支援課勤務となつた。初登場時に上司に言われた。「ここでは業者が掃除をするから、朝清掃はできないよ」しかし今まで通り朝清掃をする、そう心に決めていた。

ところが、始業一時間半前に出勤すると、業者の方が屋内外にいて、黙々と掃除をしていた。私が掃除を始めると「すみません。掃除ができていませんでしたか?」と恐縮している様子。私はすかさず「いえ、掃除が趣味なだけなんです。嫌味だとか、そんなふうには思わないでくださいね」と返した。

支援を必要とする子どもや保護者が集まる場所だからこそ、美しい環境にしていきたい。そして、自分自身も成長していくたい。毎朝一時間半、心を込めて隅々まで磨いていくことが、私の新しい「鍵山掃除道」だ。

2010年、荒れた学校を何とかしたいと朝掃除を始めた際に、『掃除道』(PHP文庫)を読んで自己流のトイレ掃除を始めた。そして2016年8月、山口県朴の森での鍵山教師塾で、本物に出会った。

2021年4月、教育委員会

掃除場所は、できるだけ彼らがやらない場所を見つけて磨いていった。

7月の終わり頃、ある生徒のことで相談を受けた。相談中、母親が言つた。「先生、毎朝掃除ご苦労様です」なんと、毎朝掃除をされている業者の方のお一人だつたのだ。話を聞くと、私の掃除を皆さんが好意的に受け取つてくださつていいとのこと。本当に嬉しく、ありがたかった。

どうしたらお互いに気持ちよく掃除ができるのか? まず顔見知りになろう! 次の日から挨拶と感謝の言葉を心掛けた。

掃除は一生の宝

千葉県 小野明子あきこ



のことを聞きました。初めてのトイレ掃除では、こんなことをするのかという衝撃と感動で、目から鱗が落ちました。そして私は、掃除を勤務校の教育の柱に取り入れました。

朝の挨拶、靴を揃えることの徹底から始め、「整理、整頓、清潔、清掃、躾」を念頭において学校経営に努めました。幸いに、学内外の大きな問題もなく、児童、保護者、教職員と自校のトイレ掃除を実施できたときは、感動と感謝の涙があふれました。

「おばあちゃん、ごみが落ちてる」「おばあちゃんはごみじゃないよ。歩くゴミ箱よ」これは、退職後に田舎の道をごみ拾いをしながら、見守りで子どもたちと歩いていたときの冗談です。

小学校長をしていた1997年ころ、知人から掃除に学ぶ会

感動し、私の意欲は高まりました。新宿街頭清掃や全国各地の掃除の会、台湾の掃除の会にも参加して、多くの同志と交流するなか、徐々に掃除道が深まっていきました。

喜寿を迎えた現在、私は夫の介護をしながら掃除道精神を貫いて生活しています。15年目に入った学童の登校見守りは、鍵山相談役の「例外をつくらない」から、悪天候の日も一日も休まず実行しています。また、地域会館のトイレ掃除や近隣のごみ拾いも続けています。

掃除に学ぶ会」を立ち上げ、他校をお借りして「トイレ磨きは心磨き」を合言葉に、活動を広げていきました。毎回、汗にまみれた子どもや大人の輝く笑顔と感想発表にしています。

五分で子どもを変える力

広島県 久保 孝行



らは生活経験が乏しく、思いやりの心や粘り強さなどが身についていることはわかりました。

一方、子どもの前に立つだけでは話を聞かせる先輩教師がいました。「このような力を身につけていたい」私はその「特別な力」に憧れ、そんな先輩から話を聞きましたが、そのようにはできませんでした。

37年間中学校教員として勤務し、何度も進学や将来のことについて何度も話しましたが、乗ってきませんでした。

当時の私は「何とかしてやりたい」という気持ちからでしたが、彼

「トイレ掃除」を毎日の掃除に取り入れました。

同じ頃、日本を美しくする会の鍵山秀三郎相談役の著書に出会い、「私に必要なことは『特別な力』ではなく、『子どもの心を育てる』ことではないか」と考えるようになりました。

その後、この考え方と「挨拶と掃除に徹底的に取り組む」という教員人生は180度変わりました。自分を大きく見せたり、強く振舞うのではなく、穏やかに子どもにあたり、「子どもと一緒に私も成長したい」と、一日一日を過ごしました。

2012年定年退職、これからも皆さんと「社会の荒みをなくす」よう努めてまいります。

(739 1302 広島県広島市安佐北区白木町古屋41-2)

2002年、民生児童委員や掃除の会の皆さんの勧めで、『素手によるトイレ掃除』を初体験しました。すると、遠くから眺めていた子どもが、そのうち便器をわしづかみし、顔を近づけて磨き始めたのです。その時間、わずか5分足らず。「五分で子どもを変える力」を目の当たりにし、感動しました。

そして、3学期から『素手による

鍵山秀三郎様に 出逢えただけで幸せ

大阪府

下正晴しもまさはる



鍵山様は、「売上や利益ではなく、社風を良くしてください」と思ひもしなかつた話をされ、私は「そんな人がいる」ととても感動して、翌週大阪から東京のイエローハット本社を訪問しました。鍵山様は、「経営者は社風を良くすることです。まずお掃除をしてください」

ください」

帰阪後、「大阪掃除に学ぶ会」にご縁をいただきました。ここには、日曜日早朝にもかかわらず、お金を払って他人様の施設のトイレを掃除する人たちがいました。これまた感動でした。私はそれ以来、会社で毎朝トイレ掃除を始めました。

鍵山秀三郎様と出会っていなかつたら、苦労知らずの私は、社員さんや取引先様に多大な迷惑をかけていたと思います。鍵山掃除道を後世に伝え、唯一無二の師への恩返しを誓います。

私が鍵山秀三郎様を知ったのは、2006年5月の講演会です。

それまで営業一筋だった私は、

家業の二代目を継いだばかりで、

「社長になつて何をしたらいいのか」わからず、悩んでいました。

当初、社員さんは自分に火の粉がかかるのを恐れてか、私に「お掃除を止めてほしい」と言つ

てきましたが、私は「強制や当番制にはしない」と約束して、掃除を続けました。

2009年、大阪掃除に学ぶ会の代表世話人を仰せつかりました。

今も会社の毎朝のトイレ掃除を続けるかたわら、週末は当会の学校や街頭、神社などで活動をしています。

菅刈公園や学校トイレ掃除で鍵山様の聲咳に接し、下座行を続けてきたことで、幾多の人生の壁を乗り越えてこれました。

鍵山秀三郎様と出会つていなかつたら、苦労知らずの私は、社員さんや取引先様に多大な迷惑をかけていたと思います。鍵山掃除道を後世に伝え、唯一無二の師への恩返しを誓います。

便器磨きは至福のひととき

福岡県 平河 力^{ひらかわ ちから}



鍵山秀三郎先生と初めてお会いしトイレ掃除をしたのは、2014年3月の靖国神社での鍵山教師塾だった。その日、靖国神社の社務所前に立つていらっしゃった鍵山先生が神々しく見え、思わず頭を下げる挨拶でし

まつた。

鍵山先生の存在を知ったのは、教職に就いた1986年である。人には、「もう幸せ・できる幸せ・与える幸せ」という、「三つの幸せ」があるという言葉に心が震えた。それから鍵山先生の著書を拝読し、トイレ掃除のことを知つた。

私が、トイレ掃除と出会つたのは、36年前の初任者の時、当時大好きな先輩が素手で亀の子たわしを持って、生徒と便器を磨いていらつしやつた。私もその先輩をまねて、生徒と素手で便器を磨く掃除をしていた。

しかし、このときの行動は、今にして思えば、鍵山先生の考え方とはほど遠かった。便器磨きは自分を良く見せたいという手段であつた。ほめられたいとか自慢し

たい気持ちが、少なからずあつたからである。

やがて、教頭を経て2014年校長の立場を与えていただいた。校長として今は、生徒の登校前の30分間、毎日校内トイレの便器磨きをしている。この時間は、

「あの一言は相手を尊重した一言だつたのか」と自分に問うたり、「自分の考えを優先して、あの人的话を聞いていたのではないか」と氣づいたりする、自分を見つめる時間である。

そうすると、誰かのおかげで今日も生きている、ありがたいなあ、うれしいなあとという思いがわいてくる。このようなトイレ掃除の真髓に気付かせていただいたのも、鍵山秀三郎先生のおかげである。